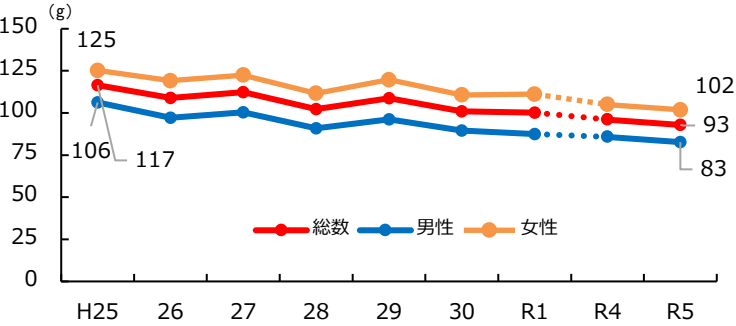


果実の消費（果実摂取量の推移と需要の変化）

- 1人1日当たりの果実の摂取量は緩やかに減少。
- 果実の消費は、繊細で高度な技術により生産される高品質な国産果実が評価されており、特に70歳以上の果実摂取量が多い。
- 年代別の消費動向を見ると、年齢層が低くなるにつれ果実加工品の摂取割合が高い傾向。
- また、消費者が果実に求めることとしては「見た目は良くないが安価」、「食べやすい」、「日持ちがする」こと等が挙げられていること、果実摂取量の少ない若年層、中年層のニーズに対応する観点からも、購入しやすく食べやすいニーズが高まっている果実加工品の需要に対応していくことも必要。

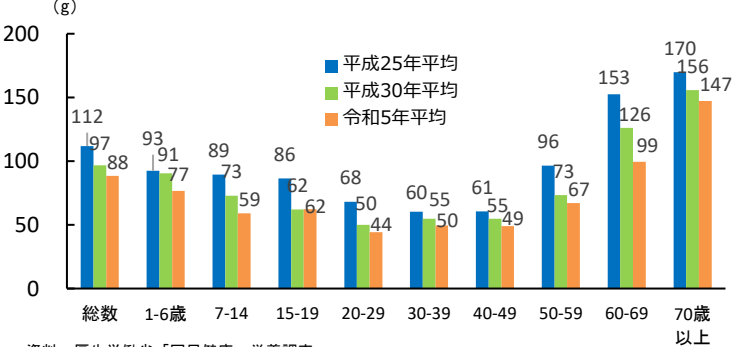
果実摂取の状況

1人1日当たりの果実類摂取量の推移



資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」（令和2年及び3年は調査中止）
注：データは20歳以上の者。「果実類摂取量」とは、生果、ジャム、果汁・果汁飲料の合計。

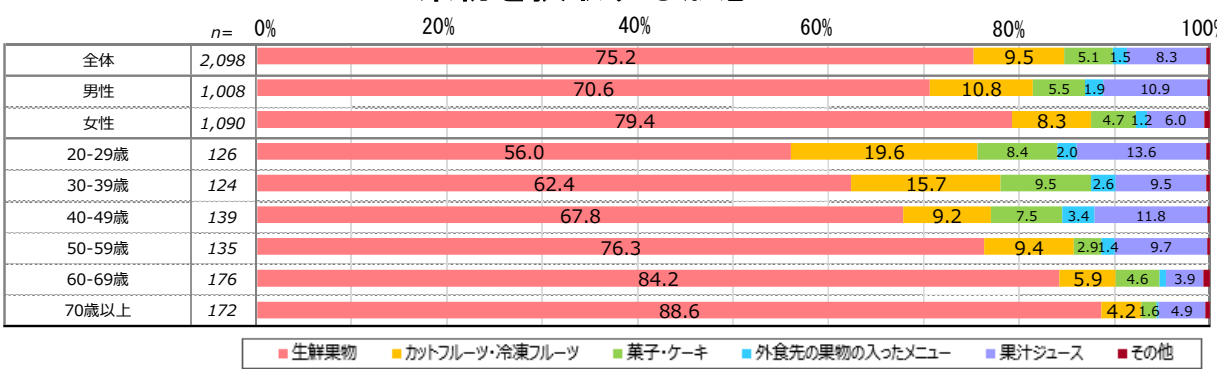
世代別果実類摂取量 （5年前、10年前との比較）



資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」
注：70歳以上の摂取量について、令和5年は70-79歳と80歳以上の数値を合計して算出したもの

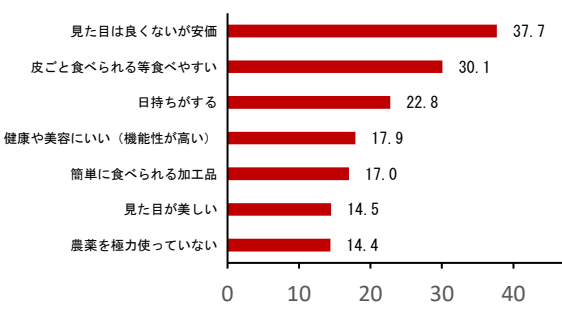
消費者の動向

果物を摂取する形態



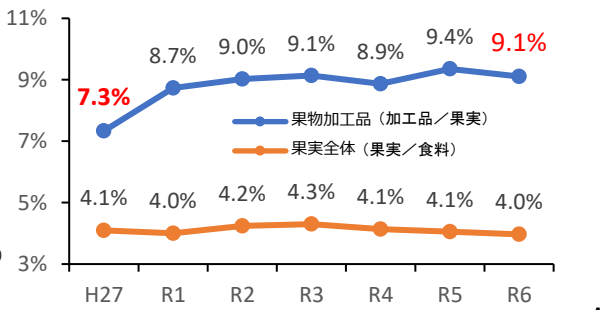
資料：農林水産省「令和4年度「アフターコロナ」を見据えた野菜・果物の消費動向調査結果（消費者）」を基に園芸作物課で作成

消費者に聞いた果実の消費量を 増やすための提供方法



資料：（公財）中央果実協会「果実の消費に関するアンケート調査」（令和6年度）

食料支出に占める果実の割合・果実 支出に占める果実加工品の割合



資料：総務省家計調査
注：データは総世帯。果実加工品にジュースは含まれない。

国産果実の安定供給に向けた基本的考え方

- 消費の減少等に対策を講じ需要の減少を最小限に食い止めるとしても、担い手の減少等による生産量の減少は、それ以上のペースで進む可能性が大きい。
- 将来生じうる需給ギャップを埋めるため、今のうちから担い手の育成や労働力の確保、省力化の推進といった対応を早急に講じていく必要。

